
正義の味方なんてどうでもいい

空乃彼方

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正義の味方なんてどうでもいい

【Nコード】

N5062Y

【作者名】

空乃彼方

【あらすじ】

「あーあ、平和だなあー。地球崩壊とかしねえかな。」

この一言がのちに俺を酷く後悔させたことは勿論言うまでもない。

何事にもヤル気のない男子高校生、神田恭一とその愉快的仲間たちが繰り広げる、青春コメディ×学園ファンタジー第一作。

零話 ねこ（前書き）

これは作者の処女作であると同時に非常にレベルの低い作品であると思われま

器の広さに自信がある方のみご覧下さい

最後まで読んで鼻で笑って頂ければ幸いです

零話 ねこ

「きりーっ、きをつけー、れいっ」

「ありがとうございましたあー」

午前中のかつたるい授業が終わり、俺こと神田恭一かんだきょういちは、スーパーの特売で三つほど購入したカレーパンを片手に、喧騒に包まれ始めた教室を出た。

目指すは、中庭を横切った先にある、部室棟の裏。別に、イジメに遭つてるとか、友達のいない陰湿な性格の持ち主だとかいう訳ではないが、この場所は静かで涼しく、居心地が良い。

「……」

俺が大して上手くは無い鼻歌を歌いながら、砂利の敷かれた中庭を通り抜け、部室棟の裏に回り込むと、そこには珍しく先客がいた。

「……にゃあー」

「……」

純白の、美しい毛並みをした殿方である（ちなみにこいつがメスだと知ったのは、しばらく後になってからである）。

彼（本当は彼女である）は、堂々とした風体で優雅に鳴き声を挙げると、俺に居場所を譲るかのようにそっと木陰から脇に動いた。その姿は、まるで中世の騎士達が王へ道を空けるかのようなだった。

俺は半ば感動しながらも、ゆっくりと木陰に近付き座り込んだ。

猫は逃げる様子も無く、ただじっと俺を見つめていた。

微妙に気まずい雰囲気を感じながらも、俺は持っていた袋を開き、一つ目のカレーパンに噛り付いた。

気が付くと午後の授業が始まるのにあと十分しか無かった。そろそろ昼休みは終わりだ。

俺は、結局最後までずっと俺に付き合ってくれた猫を見ながら手を

合わせ、「ごっそーさん」と始めは食べ物に、そして「ありがとよ、一緒に居てくれて」と後は猫に対して、感謝の言葉を呟いた。猫は未だに動こうとしなかった。

ほんの少しだけ反応を期待していた俺はため息を吐いて、立ち上がった。

「あーあ、平和だなあー。地球崩壊とかしねえかなー。」
こう呟いた一カ月後に、本当に地球が崩壊しそうになることを、俺はまだ知る由も無かった。

一話 地球崩壊とねこ

「お願いします、地球を救うのを手伝って下さい！」

いつも通りパンの入った袋を揺らしながら中庭に出た俺は、見知らぬ奴に絡まれた。何だコイツ？

「断る。俺は今から猫に餌付けしに行くので忙しいんだよ」

意味不明なこと言われたから思わずこっちもおかしいこと言っちゃまったじゃねえか、馬鹿野郎。俺はソイツをアブナイ人間と判断して逃げようとするが、腕を掴まれた。

「猫と地球とどちらが大切なんですか！？」

「知らん、他を当たってくれ。俺には地球を救うなんてのは無理だ」俺は面倒臭くなつて適当に答え、さっさと目的地に行こうとするが、そいつは俺の行く先に素早く回り込んで食い下がってくる。うぜえ。

「お願いっ！今、この世界は本当に危険で！」

「うるせえ！だれがそんな事信じるか！病院か、警察に行つて来い！それと……」

しつこく言つて来るソイツを睨むと、俺は胸中の思いをぶちまけた。

「そついうのは普通美少女が言うもんだろッ！」

アブナイ人間の容姿はどこにでもいそうなフツのガキだった。

「きりーっ、きをつけー、れいっ」

「ありがとうございましたあー」

ガキが絡んで来た日の翌日。昼休み。

俺が相変わらずパンの袋（今日は好物のピザ風味パン）を提げて

中庭に出ると、

「ん…？」

ガキの存在の代わりに、奇妙な違和感を感じた。

なんか、ヤバい……………？

そんな事を思ったのも束の間、いきなり地面が揺れだした。地震か！

次の瞬間に襲ってきたのは、ドォーンというような強い衝撃。

「ちょ…」

一瞬地面から浮いた俺は、その後中庭の砂利に叩き付けられる。

これはヤバい。直下型かも知れないな…

周りからも女子生徒の悲鳴が上がり、皆否応なしに地面に伏せる羽目になる。

だが、最初の揺れが大きかった割には地震はあっさりと収まり、数秒後すると何事も無かったかのようにピタリと止んだ。…何だったんだ？

動揺していた生徒もやがて立ち直り、今の状況について話している。

暫くすると緊急放送を告げるベルが校内に鳴り響いた。

「えゝ、皆さん。大変強い地震が起きました。」

んなこたあ分かってるよ。

「えゝ、校内にいる生徒は至急、中庭に避難して下さい。えゝ、余震の恐れがありますので、生徒の皆さんは……………」

中庭？…グラウンドじゃなくて、中庭か？

ちなみにうちの高校はコの字型にある校舎の東側（コの右側）が中庭で、西側がグラウンドとなっている。今俺がいるのは丁度中庭、校舎の東側だ。

だが中庭という名前が付いている以上、ここは全校生徒全員が集

合するには少々狭いだろうし、普通集合はグラウンドだろう。

焦って言い間違えたのかも知れないと、俺は相変わらず妙に冷静な頭のままそう考えると、グラウンドの方に駆け足で向かう。どうやら他の生徒も判断に迷っているようだ。さっきの揺れにびっくりして泣き出してしまった生徒もいるみたいだ。

数分後。

グラウンドに着いた俺は一瞬で、教師がなぜ中庭集合と言ったのかを理解した。

グラウンドには中央に巨大な穴が開いていた。

俺の頭の中で、ガキが言っていた言葉がずっと巡っていた。

『猫と地球とどちらが大切なんですか！？』

そっちじゃないだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5062y/>

正義の味方なんてどうでもいい

2011年11月17日03時12分発行